



世界が伝えた 3.11 「日本の品格」



新型コロナウイルス感染症に係る対応等に絡めて、川俣小学校のみなさんに、3月11日に伝えたかったことです。

外国人記者が、2011.3.11 あの日の日本の様子を当時新聞等で次のように伝えました。

「大地震後の物が散乱しているコンビニ。人々は落ちている食料品を拾い黙ってレジにならんとお金を払う。店側も停電の中、発電機で店内を照らし、レジを動かして黙々と対応している。・・・やがて、発電機の燃料がなくなり、店内が暗くなると、人々は持っている物を棚に戻し、静かに店から出て行った。」



「数十kmの気の遠くなるほどの交通渋滞、永遠に続くかと思われた時間の中で、しかし、私は目的地に着くまで、ただの一度もクラクションを聞かなかったことに今驚いている。」

「災害につきものの略奪やうばい合いが見られない。怒鳴り声の代わりに、口から出てくる言葉は『ありがとうございます』『すみません』の言葉。」

「山ほど買い占める者も便乗値上げする者もない。むしろ値を下げている店があるほど。」

「配給の列に割り込む者はなく、そして、配給後の広場には、ごみ1つ落ちていない・・・これが日本の、日本人の姿。」



外国の記者は、その姿や振る舞いに涙が出たと言います。

「大震災で日本は全てを失った。しかし、何にも勝るものが日本には残っている。それは日本人そのもの。」
とその記者は伝えています。



最後の最後に残るのは、人間性、その人の本性。

困っている人がいたら手をさしのべる、思いやりの心をもって誠実に人に接する、人のいやがること・迷惑になることはしない、自分が為すべきことは最後までしっかり行う・・・当たり前のことを当たり前に行うこと。そのことこそ、日本が世界に誇れる「日本の品格」。

福島、日本の・・・、世界の未来を担うみなさんに、今しっかりと伝え、そして、引き継いでほしいことです。



これから先に広がる夢と希望と、そして、人としての自信と誇りのために。

川俣町立川俣小学校長 本名 武